

# MEN'S Health

メンズヘルス



## QOL疾患



百瀬 均 名誉院長

協力/平尾病院  
 福島市兵部町6—28  
 ☎0744-24-4700

すぐに命にかかわるわけではありませんが、生活の質(QOL)に大きな影響を与える排尿障害。放っておくと大きな病気につながったり、管を入れて生活しなければならなくなるなど、日常生活に大きくかわります。男性の原因として多い前立腺肥大症について、平尾病院の百瀬均名誉院長(62)に聞きました。

# 排尿障害を考える

## 前立腺肥大症

状の原因になります。

60代で半数が自覚  
 排尿に関する症状

苦痛感じれば受診を  
 命にかかわる病気にも

60代で約半数、70代で約70%の人が、何らかの排尿に関する症状を持っています。下部尿路症候群、いわゆる排尿障害には3種類の症状があります。まず、尿を出さず、尿道が圧迫されて閉鎖しているときに感じる「閉鎖」などの症状。次に、尿意を頻繁に感じたり、尿失禁などの蓄尿症状。また、残尿感など排尿後の症状です。中でも蓄尿症状はいつ起こるか分からない症状で、QOLに一番影響を与えます。

排尿障害にはさまざまな原因がありますが、中でも男性特有の前立腺肥大症はすべての症

増え、進行すると尿閉

という尿が出なくなる状態③です。そのまま放っておくと、腎不全など命にかかわる病気につながることもあります。【図参照】QOL疾患であるう

ち、自身がどの程度困っているのかという

ことが問題です。同じ症状であっても、その人の仕事内容であったり、社会的条件により、困り具合は異なります。ですから、排尿に

ついて何らかの苦痛を感じれば、泌尿器科の受診を考えましょう。

主観的・客観的に診断  
 治療治療や手術を

手術によって閉塞している部分を取り除くことにより、膀胱に

病院を受診されると、まず何で困っているのか、主観的な症状を問診によって尋ねます。次に、症状の強さ、閉塞の度合いを見るため、尿流測定をして尿の勢いや、エコーで残尿がないかなど、客観的な状態を調べます。

ただし尿の勢いを調べても、その原因が尿道が狭いからか、膀胱の力が弱まっているためかまでは分かりません。前立腺の大きさと尿道の閉塞度合い、また自覚症状は相関しないことが分かっており、診断が難しい部分もあります。

そこで、次の検査は内圧尿流検査というかなり専門的なものになります。これは尿道に管を入れて圧を測る特殊な機械を使い、患者さんの負担もあるのですが、本当に手術をして治療すべきかどうかを判断するときに使います。

また、手術も、電気メスを用いる内視鏡手術が行われていたのが、最近ではレーザー治療も取り入れ、より出血が少なく体への負担も少ない手術も行えるようになってきました。

前立腺肥大症を持っている①②の段階の人が、何かをきっかけに急に③の尿閉へと進むことがあります。例えば、風邪薬や飲酒。また長時間の座位などで前立腺をうつ血させることもよくありません。

☆☆☆

排尿のトラブルは、「年のせいだから」と病院にからない人も多くいます。昔は治療法も多くありませんでしたが、今は正しい診断をすればよい薬も、手術という方法もあります。気になることがあれば、日常生活でいろいろな場面での支障を減らすために、気軽に泌尿器科を受診してください。

【図】前立腺肥大症によって起こること

①尿道閉塞

尿が出にくくなる・途中で止まるなど

②蓄尿症状

膀胱が過敏になり頻尿になる

③尿閉

膀胱の動きが落ち、残尿が増えた結果。放っておくと腎不全に

